

**日本において独立インターネットメディア
が担う使命、期待、障壁
～IWJ設立から3年10ヶ月、その経験
2014.9.13**

**Presented by IWJ
岩上安身**

What is “Independent Web Journal” ?

■2010年12月設立

■年間3000本以上の動画をライブストリーミング（ライブ時にはすべて無償で公開。のち、会員向けに格納）

■11,649本ものアーカイブを所蔵（2014年7月時点）

■日本各地からだけでなくベルリン、パリ、アムステルダム、ジュネーブ、ニューヨーク、サンフランシスコ、台北、ソウル、香港など、世界11カ国、18都市から情報発信を行ってきた



ネットメディアの特性

- 同時性・速報性：リアルタイムに情報発信が可能
 - 簡易性：スマートフォン一台で中継が可能
 - インタラクティブ性：「送り手」と「受け手」によるコミュニケーションが可能
 - 拡散性：TwitterやFacebookといったSNS上で瞬く間に広がる
 - 直接性：加工されていない一次情報を伝えることが可能
- ⇒ 市民が、情報の「受け手」であり「送り手」でもあるという、「情報の民主化」が可能となる

Ustreamによる多元中継

The image displays a grid of nine Ustream video player thumbnails, each representing a different live broadcast channel. The channels are labeled Ch1 through Ch9. Each thumbnail shows a different scene: Ch1 shows a woman with purple flowers; Ch2 shows a man at a podium; Ch3 shows a street scene with a crowd; Ch4 shows a street scene with a crowd; Ch5 shows a man pointing at a crowd; Ch6 shows a man in a plaid shirt; Ch7 shows a man in a suit; Ch8 shows a man in a suit; Ch9 shows a man in a dark shirt. Each thumbnail includes a video player with a progress bar and viewer statistics.

Channel	Viewers	Total Views	Other Info
Ch1	1767	27	Ustream Mobile Live
Ch2	652	-	Ustream Live, IWJ Independent Web Journal
Ch3	1147	-	Ustream Live, IWJ Independent Web Journal
Ch4	-	-	Ustream Recorded Live, IWJ Independent Web Journal
Ch5	4783	-	Ustream Mobile Live, IWJ Independent Web Journal
Ch6	2096	-	Ustream Mobile Live
Ch7	603	976	Ustream Mobile Live
Ch8	942	-	Ustream Mobile Live, IWJ Independent Web Journal
Ch9	748	-	Ustream Mobile Live

政府はメルトダウンを知っていた

3月12日 15時36分 福島第一原発1号機で水素爆発

岩上安身は、3月12日17時に後藤政志氏（元東芝・原子炉格納容器設計者）へ緊急インタビュー。IWJで中継、数万人が視聴

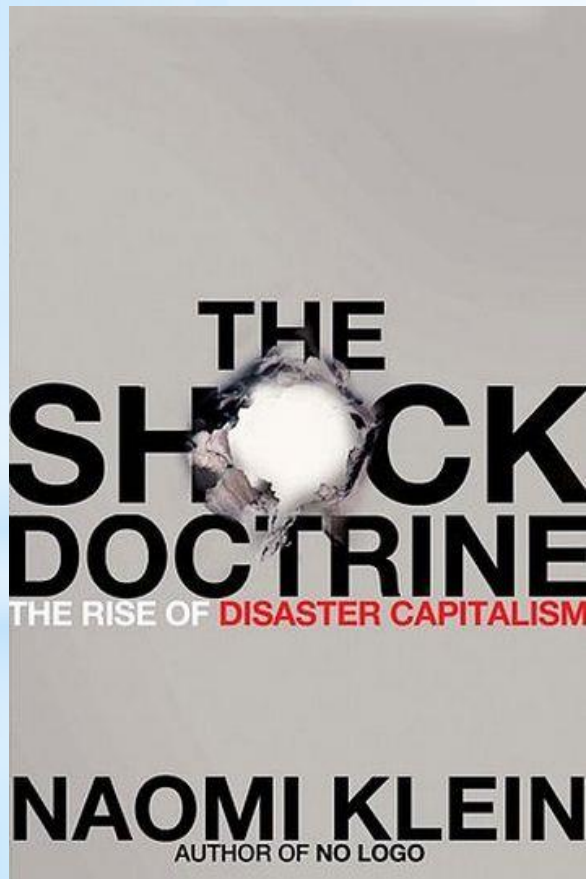
明らかに炉心溶融が起きている。
冷却水が100度に達していて、
冷却水が不足している可能性。
このままだとスリーマイル島と同じ



◆当時、政府は「落ち着いて行動してください。ただちに健康に影響はありません」を連呼。発表はウソばかり。SPEEDIの情報は公開されなかった。

東日本大震災を利用したショック・ドクトリン

- ・ 震災直後の3月13日には早くも、読売新聞は「復興にはTPPと増税が必要だ」という論説を展開



米アグリビジネスとTPP

■ TPPの目的は日本の国民の保護法制や制度を米国発のグローバル資本に都合よく書き換えること

- ・ 農業保護の解除
- ・ 農業の大規模化・株式会社参入
- ・ 遺伝子組み換え作物規制の解除
- ・ モンサントの日本代理人は経団連トップだった米倉弘昌氏

(住友金属会長)

→ TPP推進の旗振り役



小沢一郎氏の冤罪事件

・ 小沢一郎氏の政治家としての政治生命は、東京地検特捜部による歪んだ捜査と、ほとんどのメディアが加わったリンチによって葬り去られた



・ 2010年12月23日、岩上安身が小沢一郎氏に単独インタビュー
⇒このインタビューをすべてのメディアが記事にしたが、クレジットは一切入れなかった。記者クラブメディアのいつものやり方。

小沢一郎氏の冤罪事件と民主党政権の崩壊

■2009年

- ・ 3月24日 小沢氏、秘書逮捕を受け起訴
- ・ 5月11日 小沢氏、民主党代表を辞任
- ・ 9月16日 政権交代 鳩山由紀夫内閣発足

■2010年

- ・ 5月28日 沖縄の辺野古における米軍新基地建設に関する日米共同声明
- ・ 6月2日 鳩山氏、首相辞任表明

■2012年

- ・ 11月19日 小沢氏の無罪確定

日本では例外的な沖縄のメディア

- ・ 辺野古での米軍新基地建設問題。今年の夏から、辺野古の海の埋め立て作業が始まり、激しい反対運動が起きている
- ・ 地元住民に寄り添い、反対の論陣を張る報道



日本における米国の工作

- ・ 日中間の対立を煽る日本のナショナリスト
- ・ 2012年4月16日
ワシントンの保守系シンクタンク「ヘリテージ財団」で石原都知事が尖閣購入方針を表明。

都知事の発言の背後に米国の意向



対中ナショナリズムの高揚は米国が政治的目的を達成する絶好の機会

・11月14日、ヘリテージ財団のブルース・クリングナー上席研究員が「米国は日本の政治的変化を利用し同盟を深化させるべきである」という論文を発表。

「安倍が次の首相になるであろう。安倍の保守的な外交政策についての考え方と、中国に対する日本の民衆の増大しつつある懸念は、ワシントンが米日同盟に致命的重要な幾つかの政治的目的を達成する絶好の機会」

ナショナリズムが高まる中で成立した 第2次安倍政権(2012年12月)



米国の対日戦略

- ・ 米国は、自分たちでお膳立てをして、石原のようなナショナリストによって日中間の対立が激化すると、その状況につけこんで漁夫の利を得ようとしていることを自ら告白。
- ・ 彼らの達成すべき政治的目的とは、平和憲法の解釈改憲、集団的自衛権、日本の軍事負担増、辺野古の基地建設、TPP参加、原発の推進維持、増税

築地市場移転問題

- ・ 築地市場を豊洲に移転しようとする計画
- ・ 豊洲は東日本大震災で液状化
- ・ 築地にカジノを建設しようという計画が明らかに



政治の右傾化と呼応する排外差別デモの横行

- ・ 在日朝鮮人に対するヘイトスピーチの横行
- ・ IWJは2013年初頭から報道



その排外差別デモに対するカウンターへの抗議行動

- ・ 「仲良くしようぜ！」といったプラカードが登場
 - ・ 国内からも国際社会からも、ヘイトスピーチへの批判の声の高まり
- 国連人権規約委員会からも強い勧告



自民党による抗議行動規制の動き

- ・ 自民党プロジェクトチームの提言
→国内外の強い批判を受けて、逆に悪用してヘイトスピーチ規制のはずが、首相官邸前や国会前での反原発デモや反戦デモの規制
- ・ 9月3日の内閣改造で、その主導者の高市早苗議員が総務大臣に



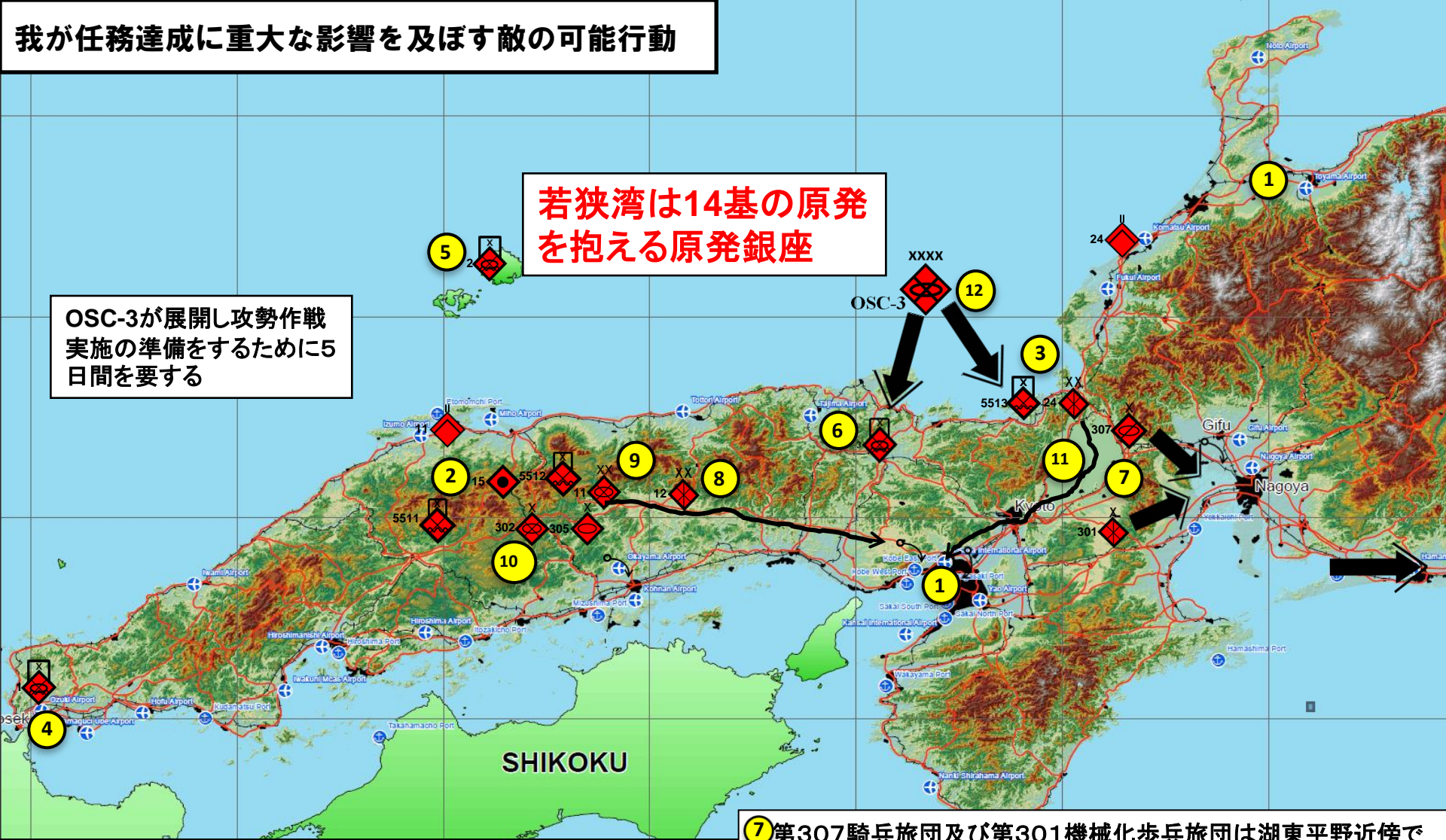
安倍政権のもと急速に軍事国家化する日本 →原発を抱えたまま戦争する核自爆国家へ

- ・ 秘密保護法（2013年12月）
- ・ 正式な手続きによらない憲法の実質的な改悪～閣議決定による憲法解釈の変更→集団的自衛権の行使容認
- ・ 武器輸出三原則緩和
- ・ 5月、イスラエルのネタニヤフ首相来日 イスラエルと日本との間で、間接的に武器輸出が可能な協力関係も
- ・ NATOとの協力関係→8月、ウクライナ情勢の緊迫化～NATOとの実動訓練も（欧州大戦か？ 世界大戦へ？）

我が任務達成に重大な影響を及ぼす敵の可能行動

若狭湾は14基の原発を抱える原発銀座

OSC-3が展開し攻勢作戦実施の準備をするために5日間を要する



- ① EACは航空攻撃及びミサイル攻撃を実施、特殊部隊の攻撃により統合防空システム及び指揮機能を麻痺させる。
- ② 第5511空挺旅団及び第5512空挺旅団は中国山地近傍の緊要地形及び中国自動車道を確保
- ③ 第5513空挺旅団は小浜近傍の緊要地形及び後方連絡線を確保
- ④ 第1海軍歩兵旅団は下関港を確保
- ⑤ 第2海軍歩兵旅団は隠岐ノ島を確保
- ⑥ 第3海軍歩兵旅団は舞鶴近傍の緊要地形及び後方連絡線を確保

- ⑦ 第307騎兵旅団及び第301機械化歩兵旅団は湖東平野近傍で阻止
- ⑧ 第12自動車化歩兵師団は大阪を攻撃奪取
- ⑨ 第11機械化歩兵師団は第12自動車化歩兵師団を超越交代し、大阪を攻撃
- ⑩ 第305機甲旅団及び第302機械化歩兵旅団は第11機械化歩兵師団の大阪攻撃を支援
- ⑪ 第24自動車化歩兵師団は大阪を攻撃奪取
- ⑫ OSC-3は名古屋を奪取したる後、東京を奪取

